

2021.6.7

Report from  
**AKATSUKA PARK**

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

# 一言で「緑」といっても



## 一色ではない奥深さ

5/17の観察時は早くも梅雨入りかと思わせる気候だったのが、その後2週間、雨空が続くわけでもなく、すっきりと晴れるでもなく、中途半端なお天気が続いています。赤塚の林は春から夏への端境期（はざかいき＝もともとは収穫物が入れ替わる時期、転じて物事の変わり目）なのでしょう。春にはキラキラしていた草原の花々はあまり見かけられなくなりました。その代わり、上を見上げると木々の枝には若葉が茂っていて、それはそれは花を観るのと同じくらい美しいものです。

大門と城址をつなぐ歩道橋から俯瞰する森の緑。濃く暗い緑から明るく黄色が入った緑まで、いったい何色あるのでしょうか？ 「みどり」は「翠」とも書き、これはカワセミの羽の翡翠色、また「紺碧（こんぺき）の空」というときの「碧」も「みどり」と読み、これは輝いた青。

## 光に透かして見る若葉も美しい



←トウネズ  
ミモチ 葉  
を光に透かすと  
葉脈がくっきり  
と見えるので  
「透鼠麴」と書  
くのかと思いき  
や、違います！



「唐鼠麴」でした。成り始めの実がついています。

シラカシ→

写真右の上が新葉で、下の方の黒ずんだ緑が去年の葉。もうすぐ落ちます。新しい枝にはどんぐりの赤ちゃんが出来ています。実りは9月。



## 魅力いっぱいの赤塚城址

↓城址二の丸跡の南側、実のなる木が植えられた一角で満開のザクロ。花もきれい！



↓梅林の下ではネジバナとニワゼキショウがそろ



い咲き。その他、注目すべき野

草が足元にいっぱい咲いています。踏みつぶしにご注意ください。↑チチコグサも葉を展開

八丁目の林 では↓希少種オカトラノオが开花



**大門地区** の都道側  
ではヒメヒオウギ→  
が見つかりました。初登場  
ですが、これ、栽培された  
園芸種。どうしてここに？  
ミステリーです。



6月のモニタリングは 6/14、6/21 いずれも月曜日 9:00 ため池公園梅林  
下スタート このご時世、コロナワクチン接種が優先です。決して無理しないでください。

都立赤塚公園サービスセンター 電話：03-3938-5715